



おかもと しげあき
岡本 重明
青嵐会



全ての支給対象者が申請できる支援策は

さまざまな取り組みにより、漏れなく申請できるよう支援する

市民に優しいまちづくりについて

問 給付金支給事業における申請者支援の在り方について、市の考えは。

答 簡潔で分かりやすい案内チラシの作成や周知の徹底、申請相談体制を整えることが必要である。さらに、申請に一層の支援が必要な方は、各種委員や事業者の方々との連携等、さまざまな取り組みにより、漏れなく申請できるよう支援することが重要だと考えている。

問 定額減税補足給付金支給事業では541名、物価等価格高騰支援給付金支給事業では49世帯の方々が支援事業を辞退したと認識され支援が届かなかったが、今後は全ての支給対象者が漏れなく申請できる支援策を考えているのか。

答 今後は対象者本人だけでなく、親族や周りの方を含め、広く支給事業の周知を図るとともに、手続きをできる限り簡便にし、引き続き相談しやすい支援体制を取っていく。併せて、申請に一層の支援が必要な方には各種委員や事業者の方々との連携等、さまざまな取り組みにより、漏れなく申請できるよう支援し、対象者の方がより多く受給で

きるよう努めていく。

問 ごみの分別について複雑・煩雑化がもたらす市民への影響は。

答 生ごみの分別が増えることになるが、プラスチック類をまとめることで14区分から13区分へ区分数を減らすなど、複雑にならないよう配慮した。また、各地区自治会でごみの分別説明会を開催し、変更内容に理解をお願いしてきた。

問 ごみ分別への対応が難しい市民に対する対応策は。

答 認知機能の低下等の理由により、分別が難しい方などから相談を頂いたら、パンフレットなどを活用し、丁寧に説明をして対応する。



〈広報広聴委員会〉

委員長 内藤喜久枝
副委員長 古川 幸宏
委員 小川 貴夫
村上 誠

岡本 重明
小川 金一
真野 尚功
柳元 浩幸

編集後記

令和5年から議会だよりの編集を担ってききました現委員会メンバーも2年目となり、今回が最終号になりました。一人でも多くの市民の方に読んでいただけるよう、簡潔な表現を心がけ、写真等を多くするなど紙面の構成を工夫してまいりました。また広聴にも力を入れ、議員と

たはらトークを通して、多くの市民の方から意見を頂きました。市民まつりでも議会のアンケートにご協力いただき、議会の活動等についても多くの意見を頂きました。これらを今後の広報広聴活動に生かすべく、来期の委員会メンバーにしっかり託していきたいと思えます。最後になりましたが、今まで議会だよりを愛読していただき、誠にありがとうございました。委員一同、ご支援ご協力いただきました皆さまに心から感謝申し上げます。